

春日神社



もくじ

- 歳末の御挨拶
- 祭典ごよみ
- 研修旅行
- 職場体験学習
- 蓬萊雅楽会二十周年
記念演奏会
- 表彰と人事
- 初詣のご案内
- 春日の杜

社報 春日神社

第十六号

発行日 平成23年12月15日

発行者 〒870-0031

大分市勢家町4-6-87

春日神社 宮司 宮本隆之

TEL 097-532-5638

題字 東郷平八郎

歳末の御挨拶

宮司 宮本 隆之

先ずもって聖寿の弥栄をご祈念申し上げます。また、神宮におかれましては、第六十二回式年遷宮に向けて諸儀恙なく執り進められておりますこと、誠に慶賀に存じ上げます。

さて、本年は一月の新燃岳の噴火に始まり、三月十一日には東日本大震災が発生して未曾有の大災害を齎しました。今日に至りましてもその余震と思われる地震が全国各地でいまだ続いており、改めて天災の恐ろしさを感じさせられた一年でありました。被災地において、復興に向けていろんな方途が執り進められているという話を、少しずつではありますが耳にするようになってきました。しかしながら九ヶ月を経過した現在においても、被災者の方々の苦しみは続いているという現実が変わりはありません。天皇陛下の御言葉にもありましたように、遠く九州からもその困難に常に思いを馳せながら、一日も早く皆様の心安らく日が来るようお祈り申し上げます。

このような国内情勢にもかかわらず、国政は安定せずに日本の向かう方向性もはっきりしていないように感じられます。まるで初心者マークのドライバーが舵取りをしているかの如く、国内はむろん対外的な外交貿易問題などあらゆる事について、不安を抱くのは私のみではないと存じております。

十一月に天皇陛下が御病気で入院せられ、御即位以来初めて重要祭典である新嘗祭を御欠席なさいました。私たち神職は日々大前に御病氣平癒の祈願祭を齎行して、一日も早くお元気で御公務に戻られますことを願っております。世間では女性宮家創設などの皇位継承にかかわる話題が取りざたされています。なにぶんとも日本の国の根幹にかかわる重要な事項だけに、積み重ねられてきた歴史に鑑み、よりよい方向に向かうことを念願しております。

いろんな事が起き憂いを感じながら年の瀬を迎えています。悲しく辛いことが多かった一年ではありましたが、これも一つの糧として記憶に残しながらも、迎えます新しい年が皆様にとりまして希望の持てる良き年になりますことをご祈念申し上げ、年末の御挨拶とさせていただきます。

祭典ごよみ

年末から春にかけて執り行われる恒例祭です。

十二月二十三日 天長祭

天皇陛下の誕生日をお祝いする祭典です。巫女舞「豊栄舞」を奉納します。

十二月三十一日 大祓式・除夜祭

一年間を締めくくり、罪穢れを祓って清々しく新年を迎えるための祭典です。

一月一日 歳旦祭

元旦にあたり、皇室の弥栄と国家の繁栄、氏子崇敬者の幸せをお祈りします。

二月三日 初午祭（撰社 稻荷神社）

本殿の西側に鎮座するお稲荷さんの例祭です。

二月十一日 紀元祭

日本の国の誕生を祝う祭典です。雅楽の伴奏で国歌を斉唱します。

二月十七日 祈年祭

本来は農耕儀礼に基づくお祭りですが、今日では稲作のみならず殖産工業すべてに亘って、この一年間の恵みを願う祭典です。

四月十二日 春季大祭宵祭

春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたる庄内神楽が奉納されます。

四月十三日 例祭

神社で一番重要な祭典です。本社本庁からの献幣使を迎えて執り行われます。

四月二十九日 昭和祭

昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぐ祭典です。

五月一日 撰社金刀比羅社祭

本殿東側に鎮座するこんびらさんの例祭です。

春日神社研修旅行に参加して

春日神社氏子青年会

角永 喜重

晴天の春日神社を定刻通りに出発。いざ山陽道を目指してバスは快調に進みます。宇部のインターを降りたと思ったら、そこが琴崎八幡宮でした。正式参拝を済ませて、境内を案内して頂きました。こちらの大鳥居前で植木市を開催中の福岡県田主丸の造園屋さんは、春日神社が紹介した方だそうで、相互の御縁をこんな形でも感じました。参拝後は近くの海浜和風レストラン「かめうら苑」へ。山口宇部空港の滑走路越しに周防灘と九州が眺められて、お昼から美味しい食事を頂きました。

昼食後は広島廿日市の宮島口に直行し、フェリーで十五分の所が宮島厳島神社です。船から見える海中にある大鳥居を携帯電話のカメラでパチリ！パチリ！神社に行く途中、鹿が居るのにはビックリしましたが、人懐っこく近づいても逃げ回る様子はありませんでした。神社の神職さんから案内の上いゝるような説明を聞き、正式参拝をさせて頂きました。夕闇の迫る時間帯にもかかわらず、「平家納経」などの貴重な宝物を拝見することが出来ました。また、宮島と言えば「もみじ饅頭」です。敬神婦人会の方について行き、評判のお店を教えてくださいました。買い物を終える頃には辺りはすっかり夜の装いでした。ホテル到着後はお楽しみ宴会。夜食に広島焼も食べたため、一夜にして1kgも体重が増えました。

二日目は、宮島を朝八時に出発し防府天満宮へ正式参拝。笛、太鼓、琴による巫女さんの舞もあり大変おごそかな気分になりました。天満宮宮司さんのお話では、全国にある天神さんのなかで最初に創建したのが防府天満宮だそうです。参拝後、近くの毛利博物館へ。毛利邸庭園の広大さと、廊下等に使用しているケヤキの一枚板には本当にビックリしました。さらに収蔵されている、徳川家康が関ヶ原の戦いの折に毛利に送った生誕文や雪舟の四季の図にはまたまたビックリでした。

下関ベイエリア唐戸市場の昼食は、前日も増して豪華な食事に舌鼓を打ちました。ショッピングの後一路春日神社へ、予定通り無事に帰県しました。今回が初めての研修旅行参加でしたが、とても有意義な時間を過ごさせて頂き大満足の旅でした。



中学校生徒の 職場体験学習

近年では中学校の進路学習の一環として、会社や商店など様々な事業所を生徒が訪問し、実際に仕事や作業などを体験する「職場体験学習」が行われています。当社でも四年前から近隣中学校の生徒を受け入れており、本年は上野ヶ丘中学校、大分西中学校、城南中学校、王子中学校、滝尾中学校の女子生徒たちを受け入れました。

神社での仕事は他の一般的な事業所と異なっていることから、生徒の皆さんは緊張と不安があったようです。体験内容として境内の清掃に始まり、巫女の装束に着替えた後、基本作法・結婚式・巫女舞・雅楽などを体験していただきました。今回の学習を通じて、日本の伝統・文化の素晴らしさを理解してもらい、今後の日常生活や進路選択に活かしてもらえればと思います。

〔生徒さんのお礼の感想より〕

◎神社のお仕事は普段では体験できないようなことがたくさんあり、とても貴重な体験をさせていただきました。今回の体験学習では仕事の大変さ、やりがいや細かな気遣いがあることを知りました。また神社ということもあり、伝統の大切さを自分なりに理解できたと思います。



◎神社の皆さんが優しく分かりやすく説明して下さいだったので、楽しく学習を終えることができました。特に印象に残った事は「作法は知っていて損はない」ということです。今まで作法などよく分かっていなかったのですが、きちんと学ぶことができ良かったと思います。そしてこれからの生活に生かしていきたいです。

◎雅楽と巫女舞が印象に残りました。簡単に笛の音が出るだろうと思っていましたが、やってみると難しくなかなか音が出ませんでした。巫女舞は巫女さんから丁寧に教えていただき、最後に生演奏で舞った時の感動は忘れられません。ご指導していただきありがとうございました。

蓬萊雅楽会 発会二十周年 記念演奏会

蓬萊雅楽会では結成から満二十周年を迎えたことから、秋季大祭宵祭の祭典に続く、十月十八日の午後六時三十分から記念演奏会を開催しました。

当社にはもともと氏子有志により祭典時の雅楽演奏が行われていたが、平成二年に神職を加えて「春日神社雅楽部」として正式にスタート。年を追って県内の雅楽愛好者が広く入会するようになり、国民文化祭への参加となった平成十年に現在の名称に変更し、今日では登録会員が四十名となつて九州でも有数の雅楽団体に成長しました。

この間、当社の恒例祭や神前結婚式などを始めとして、宇佐神宮勅祭や会員奉仕の社寺での奉納演奏、白杵市の「竹宵」、また市内外の小中学校からの要請による雅楽教室など多岐にわたって活動しています。

当日は晴天に恵まれて風もなく夜の演奏会としては申し分のない天候となり、約五百名の参観者を迎えました。境内石畳を挟んで社務所側に舞台を、そして神楽殿側から舞台を向く形で客席が整えられました。配置は違いますが、昨年の御鎮座千五十年祭を記念して実施した「語り舞台 日本神話へ

の誘い」に続いての、ライトアップした境内特設舞台での演奏会です。内容としては雅楽六調子のうちの太食調(たいしきちょう 洋楽E音を基音とする)のなかから、管絃は「太食調音取(たいしきちょうねとり)」「傾盃楽急(けいばいらくのきゅう)」「輪鼓禪脱(りんこだつ)」を、そして舞楽は今回二十周年を記念して装束を新調した「還城楽(げんじょうらく)」を、そして最後に「長慶子(ちやうげいし)」を演奏して終了、多くの拍手を頂きました。またこの時の様子がNHKニュースや地元紙で報道されるなど、対外的にも好評を得ることが出来ました。

当社としては、次年以降についても文化的な情報を発信するべく、いろんな分野から取り組んでまいりますので何とぞご期待下さい。



表彰と人事

表彰

- 神社本庁設立六十五周年記念表彰

平成二十三年五月二十五日付

責任役員 丸尾 啓一郎

- 大分県神社庁設立六十五周年記念表彰

平成二十三年八月二十九日付

責任役員 矢野 利幸
敬神婦人会 甲斐 千代子
敬神婦人会 續 道子

- 大分県神社庁大分支部定例表彰

(永年勤続十年)

平成二十三年十一月七日付

総代 大塚 則弘

人事

- 神社本庁辞令

平成二十三年十月十日付

権禰宜 田中 義尚
神職身分二級とする

初詣のご案内

例年三が日の初詣参拝者は約三十万人を数えます。本年もこの多くの方々をお迎えするべく準備にかかりました。熊手や福笹・干支土鈴など数多くの縁起物、また「勾玉守」を始めとして各種お札やお守りなどがある中、社務所内では神職巫女が手分けをして連日破魔矢の奉製作業を行っています。

駐車場は境内春日公園を開放するほか、本年も隣接する「フレスポ春日浦」のご協力により臨時駐車場としてご利用頂きます。なお、大晦日から周辺の進入路について規制が行われますのでご注意ください。

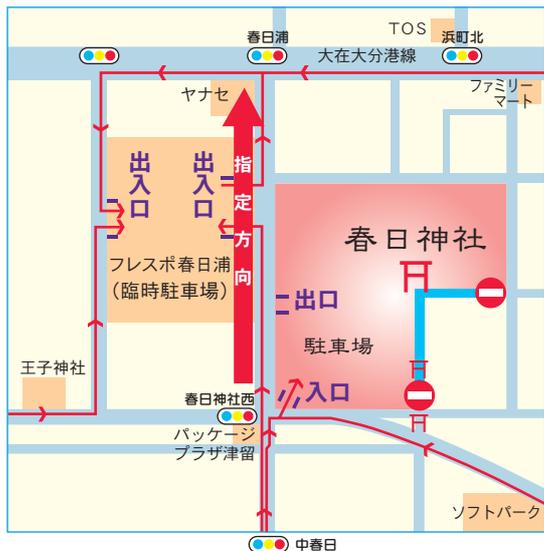
また、企業団体等の新年祈願祭については、電話にて事前予約をお受けしていただきますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

◎指定車両以外進入禁止

12月31日午後9時より 1月7日午後3時まで

◎指定方向規制

12月31日午後11時より	1月1日午前5時まで
1月1日午前10時より	1月1日午後7時まで
1月2日午前10時より	1月2日午後7時まで
1月3日午前10時より	1月3日午後7時まで



○国道10号線の中春日交差点から春日神社に向った場合、右車線は春日公園内駐車場へ、左車線はフレスポ春日浦駐車場への進行となります。

問い合わせ 春日神社社務所 ☎097(532)5638



春日の杜

散策

vol.13

江海社・稚児塔

こうかいしゃ ちごとらう
神社境内北東、金刀比羅社右横には江海社と稚児塔と呼ばれる二つの石の祠が鎮座しています。長年を経てお社の基礎の状態が悪化したことから、この九月に周辺の拡張工事と併せてお社をお移しして、とてもお参りしやすい環境となりました。

江海社 祭神：豊玉彦命、豊玉姫命

そもそも、この社は当初境内地にはありませんでした。今から七七〇年前の仁治三年(一二四二)、戦国大名大友宗麟で有名な大友氏二代の親秀が、春日浦の海岸沿いに創建したものです。

大友氏は建久七年(一一九六)に豊前豊後の守護職に任じられ、二十二代の宗麟に至る三九八年間この地を統治しました。同氏は国家統治の政策として敬神崇仏を掲げ、治国安民を祈願する目的で盛んに寺社の造営を行いました。当春日神社もその一社に挙げられ、府内総社として特に篤く崇敬を寄せ、初代能直は荒廃した社殿を修理、また二代親秀は多くの社領を寄進しました。また仁治三年には神殿及び華表(鳥居)の造営を行ない、同年九月中旬卯の日に、神殿の完成を祝って盛大に祭事が執り行われたと記録に残っています。

御神体となる石は表面を蛭がびつしりと覆い、潮が満ちる時は海中から浮き出し潮が引くときは元の場所に戻るとされ、奇石として人々に尊ばれてきました。また親秀は毎月一

日、十五日、二十八日に春日浦の清潮を汲んで家内を浄めさせていたと言われ、これにならない、現在では当社神幸祭の中で「潮搔神事」として残っています。江海社は俗に「いぼ神様」と呼ばれており、体にいぼがある人がお参りするとそれがとれると言われており、今なお多くの人が参拝に訪れています。

稚児塔 祭神：稚児塚大神

現在の石祠は、上部を明治三十八年(一九〇五)に、土台部分を大正八年(一九一九)に、ともに地元の氏子である磯崎宗太郎、是永寿八、是永鉄造が中心になって造られました。それ以前は「大分縣社寺名勝圖録」(明治三十七年(一九〇四))によると「稚児塚」と表記されており、こんもりと丸く土を盛った形で描かれています。「稚児」とあるように幼い子供が祀られているのは確かでしょうが、それがどの誰なのか、そして、いつ境内に造られたのかなどは不明のままです。

